

コングリ・クバーノ

ジョエル・パス(Gt.Vo.)

1975年、キューバ共和国カマグエイ州生まれ。幼いころから音楽に強い興味を持ち、8歳から父親がアルミスプーンで作製したギターを片手に地元の劇場などで歌いはじめる。Coro Nacional de Cuba(キューバ国立合唱団)第一歌手のMargarita Ulloa氏に声楽を師事。17歳で活動拠点をハバナに移し、1995年、1996年にはキューバ音楽ソングとサルサの登竜門的コンクール Buscando el Soneroで2年連続ファイナリストに選出。その後も様々な形態のグループに加わりさらに研鑽を積む。1998年～2001年、Grupo Magueyの歌手としてギリシャ、スペイン、コスタリカなどで数々のコンサートやテレビ出演。2002年よりMadera Buenaの歌手、パーカッショニストとしてハバナ旧市街のレストランLa Minalにて演奏を開始。近年キューバで最も人気がある歌手Ivette CepedaやグループReflexiónのコンサートなどにもゲストミュージシャンとして呼ばれる。2012年8月、Madera BuenaのリーダーAriel Fernández Cintralによるポップス3曲をレコーディング。2013年から日本をベースに活動。自身のグループGrupo Congríを結成し、コンサートやイベント、ラウンジ演奏など幅広く活躍。

カルロス・セスペデス(Gt.Vo.)

14歳からギターをはじめ、キューバ・サンティアゴにある「イグナシオ・セルバンテス・カワナ音楽学校」にて学ぶ。キューバの伝統音楽ソングを若手ミュージシャンによって復興させた人気となったグループ「ホーベネス・クラシコ・デル・ソング」のボーカル&ギターを担当。ソングの伝統的な編成を踏襲しながら現代キューバ音楽～ラテンポップス等の要素をとり入れたグループ、「トラヘアエボ」結成し、リーダーをつとめる。1999年より1年間映画「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」のツアーメンバーとして参加。2001年 Bis Musicよりアルバム『Dame un chance』をリリース。ニューヨークのリンカーン・センターでの公演を始め、ヨーロッパを中心に海外ツアーを行う。2002年～2004年にはベルリン・ソング・フェスティバル他、フェスティバルに多数出演。2006年クルーズ客船「Blue Moon」ブルマントウール北極・バルト海上に出演。2007年より新しいプロジェクトをスタートし、キューバでのテレビ出演、ライブを中心に活動し2011年ファースト・アルバム「Tiempo Despues」を制作。2012年より拠点を日本に移し幅広く活動。

ペドロ・バジェ(Fl.Sax.)

キューバ出身のサクソ、フルート奏者。キューバで有名な音楽一家でバジェ家の長男であり、キューバ国内外で活躍する歌手ユムリとフルート奏者マラカは弟にあたる。イラケレのメンバー等数多くの有名ミュージシャンを輩出したキューバ軍楽隊を経て数々のバンドで活躍した後、兄弟でユムリ・イ・ス・エルマノスと結成。CDを次々とリリースし(日本ではビクターより発売)、海外公演も数多くこなす。また作曲家としての一面も持ち、ニューヨークのサルサ界を代表するアーティスト、オスカル・デ・レオンが彼の曲「La Bomba」をカバーし、また「El Fuelle」がマラカのアルバム「Tremenda Rumba」(2002年度グラミー賞ラテン部門ノミネート)に収録され好評を博している。現在は日本に在住し、若手キューバミュージシャン達とコンサート・ライブ活動等を行き交う一方、ラテンテイストを活かしたTVコマーシャル製作、中島美嘉、福原美穂等のライブサポート、NHKテレビ番組「まるごとキューバ」のコーディネーターなどを務める。国際交流にも意欲的でキューバ音楽についての講演、キューバリズム講座、スペイン語講座などの講師も務める。NHKテレビ番組「スペイン語会話」では、トランパッターの弟イリスと共に日本でのライブ活動等の様子が取り上げられた。

ホセ・フロメタ(Tp.)

1980年、キューバ共和国サンティアゴ・デ・クーバ生まれ。キューバの音楽学校でトランペットを専攻し卒業。トランペットを主軸としながら、パーカッションも複数演奏するマルチプレイヤーとしての顔も持つ。これまでにキューバンソング、サルサ、ラテンジャズ、クラシック音楽など幅広いジャンルを演奏。その音楽キャリアを通じて、キューバ国内はもとより、世界中の様々なステージで多くの音楽グループと共に演奏し、その才能を発揮してきた。また、2010年にセネガルのダカールで開催された第3回黒人芸術祭にも参加。世界中の著名なミュージシャンたちとステージを共有するなど、国際的な活動経験も豊富である。

ルドウイグ・ヌニェス(Perc.)

1975年キューバ・ラストゥナス生まれ、ハバナ育ち。14歳より父のバンドで活動を開始し、17歳でベトナムに初海外遠征。ロックグループで4ヶ月の公演後、ハバナに戻りCarlos Manuelの結成に参加。その後、Tanya, Conexión Salseraに所属。ハバナでの演奏がテレビ放映された際、キューバの一流バンドBamboleoのディレクターであるRazaro Vardesの目に留まり、1995年Bamboleoにドラマーとして加入。以降、2004年10月まで約10年間、バンドのメインドラマーとして、ヨーロッパ、アメリカ、中南米など世界各国のツアーに参加。Bamboleo在籍中には、DLGのニューヨークでのレコーディング、Sierra Maestra, Lolo Martinezなど大物グループのレコーディングにも参加する。2004年Bamboleo脱退後、EL Clanに1年在籍。彼の加入によりバンドのテクニックが飛躍的に向上との評判を得て、アメリカのキューバンサルサ情報サイト『timba.com』の2005年ベストドラマー10位に選出。2006年より活動の拠点を日本に移し、ドラマー、パーカッショニストとして音楽活動を開始。キューバ音楽を中心としたラテンミュージック、ラテンジャズを得意とし、ライブハウスやイベントでの演奏をメインに各地のジャズフェスティバルにも参加している。

大倉山ジャズスペシャルカルテット

高遠彩子(Vo.)

横浜市中区元町生まれ。幼稚園に入った頃、歌への志を自覚する。家にあった古いレコードで世界の様々な音楽と出会いフォークローレなどの民族音楽、オールドジャズやア・カペラ・コーラスなど気に入ったものの歌詞を聞き書きしては歌っていた。カトリック系の中学・高校で過ごした6年間に多くのミサ曲、聖歌に出会い、コーラス部と聖歌隊で歌う。大学では声楽を専攻。1999年、細野晴臣に見出されヴォーカリストとしての活動を開始。「環太平洋モンゴロイドユニット」のメンバーに加わり、毎年伊勢・猿田彦神社で奉納演奏を行う。種類なき天性的な歌声を操り、山下洋輔、村上ポンタ秀一、Giulietta Machineとのコラボレーション等、ジャンルを問わない自由なスタイルで様々なアーティストと活動、国内外のジャズフェスティバルやライブにも多数出演。2016年には山下洋輔とのデュオで自作曲「Rosebank House」のPVを発表した。2018年1st.ミニアルバム「Smile」リリース。4年間の冬眠から目覚めた2024年、作詞・作曲が突然しゃっくりのように止まらなくなり、かつてない勢いで新曲を発表。2025年、1st.フルアルバム「触れもせで」をリリースした。蕎麦好きとしても知られ、NHK「美の壺」に蕎麦コメントイターとして出演する等、TV・雑誌でも活躍。著書に「蕎麦こい日記」(飛鳥新社)がある。

宮崎佳彦(Cl.)

広島県尾道市生まれ。小学校5年生のときにピアノを習い始める。中学入学後、吹奏楽部に入部しクラリネットを始める。高校生の時に初めてクラリネットのジャズを聴き、ジャズクラリネットに興味を持ち、法政大学入学と同時に、ジャズ研究会にてジャズを始める。その後、クラリネットを谷口英治、サキソフォンを右近茂、各氏に師事。モダンジャズについて研究しつつも、以前より興味をもっていたスイングジャズやトラディショナルジャズの研究にも力を入れる。「聞いて楽しい、心地よい音楽」を信念に、スイングジャズやジャズスマナーシュ(フランスのスイングジャズ)、デキシランドジャズなど、いわゆるトラディショナルジャズといわれる1940年代までによく演奏されていた曲、スタイルをベースに演奏をしている。また演奏以外にもジャムセッションやスウィングダンスなど、参加型でスウィングジャズを楽しめるイベント「Swing Jazz Meeting」を企画、開催している。第33回浅草ジャズコンテスト ソリスト賞受賞。2023年リーダーアルバム「Swingin' Jazz Laboratory」をリリース。クラリネット奏者、北村英治、花岡詠二、谷口英治、各氏との共演も果たす。

福島久雄(Gt.)

1988年、東京ホテルクラブバンドに参加。フランスツアーでジャンゴ・ラインハルト・フェスティバルに参加する。1999年、サラエボで開かれたJazz fest Sarajevo'99に出演。2001年、オスロで開かれた「Django Reinhardt festival」に出演。2007年、Gypsy Jazz Festival New Caledoniaに出演。Gypsy swing projectでアルバム「De quel pays etes vous?」(Capivara)、自己のカルテットでアルバム「European dark sky」(Ohrai Records)を発表。現在は、松本健一(sax)との漂流(さすらい) duoライブや山田晃士&流浪の朝謡等で活動中。ノスタルジックなジプシー・スウィング・ジャズからモダン・ジャズ、フリー、アーヴァンギャルド、民族音楽、等の境界を超えたインプロヴァイズド・ミュージックを目指す。

ヤヒトモヒロ(Perc.)

少年時代をカナリア諸島で過ごした異色の打楽器奏者。山下洋輔、渡辺香津美等との共演の他、「じゃがたら」や「エスケン&ホットボンボン」のレギュラーサポートも務める。「武満徹メモリアルコンサート」ではカーネギーホール等に出演。2010年からサイトウ・キネン・フェスティバル松本に3年連続出演。ウルグアイの至宝、Hugo Fattoruso(pf)とのDuo「Dos Orientales(ドス・オリエンタレス)」は、2016年在外公館長表彰受賞、2019年ラグビーワールドカップ釜石のファンゾン出演、2021年には外務大臣表彰(授賞式は2022年)を受ける。2021年60才を節目に、ピーター・バラカン社会のもと山下洋輔、小野リサをはじめ著名な音楽家27名を招いた「還暦記念無観客LIVE配信」は、大きな話題となる。2023年3月、阿部篤志pf、宮田岳bとのリーダーバンド「サロゲートトリオ」は、宮城県七ヶ浜国際村にて小野リサとの公演が実現した。現在、Dos Orientales、山下洋輔、向井滋春との室内楽団「八向山」、サロゲートトリオ、公開車庫、マレー飛鳥(vn)とのUnitやアルゼンチンのFlorencia Ruiz(vo,g)とのUnit等、多岐にわたり国内外で活動している。2025年Dos OrientalesでEXPOナショナルデーホールに出演。同年、2026年に向けてGAIA CUATROに続く「GAIA & Friends Session」始動。